

BeLive

3

**高校生がつなぐ「共助」!
対話から始まる
地域の防災力向上プロジェクト**

**岡山県立玉島商業高等学校
岡山県立玉島商業高等学校 探究チーム (タマタン)**

高校生がつなぐ「共助」！ 対話から始まる 地域の防災力向上プロジェクト

岡山県立玉島商業高等学校

探究チーム (タマタン)

嶋村 心優
竹田 琴音

三宅 愛莉
大倉 紫月

川崎 莉理
村上 穂夏

齋藤
原田



チームマスコット
アミコ

目次

01 プロジェクトの概要

02 プロジェクトの流れ

03 プロジェクトを振り返って

04 まとめ



01 プロジェクトの概要

2018年7月西日本豪雨を経験した玉島地域



01 プロジェクトの概要

2024年1月に発生した能登半島地震



01 プロジェクトの概要

過去の事例から学ぶ「共助」の重要性

「共助」とは・・・

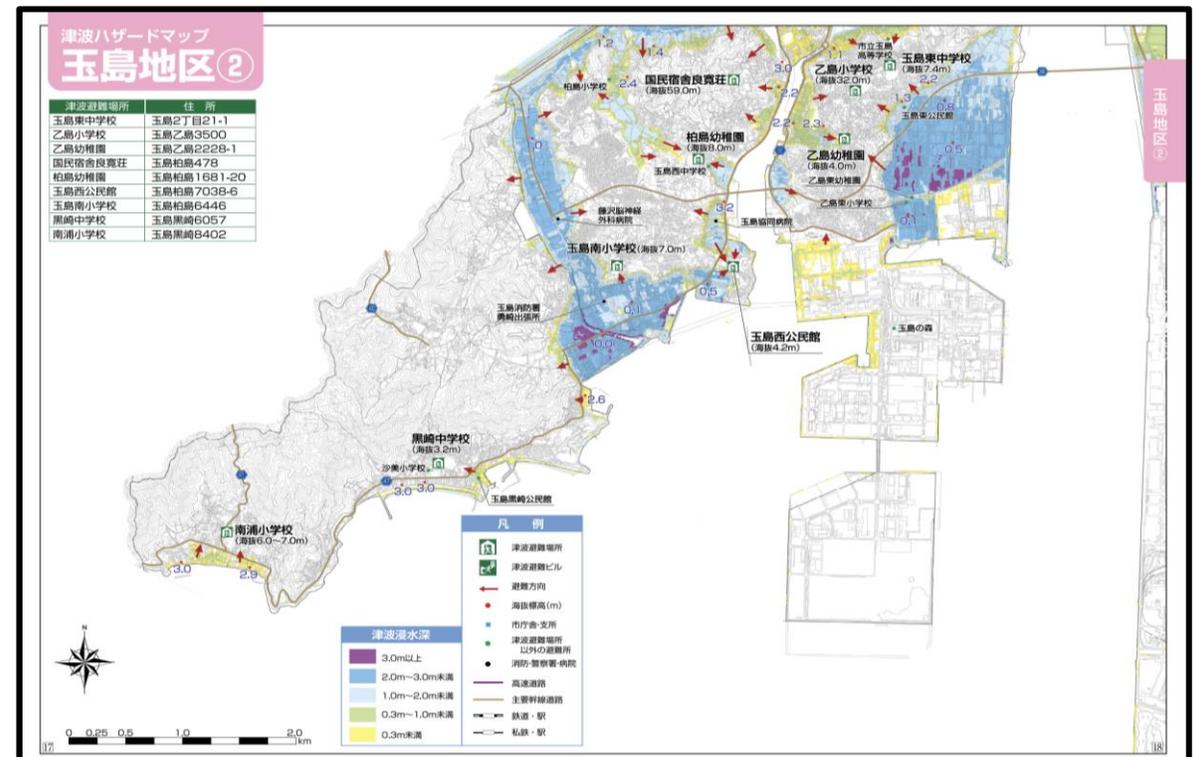
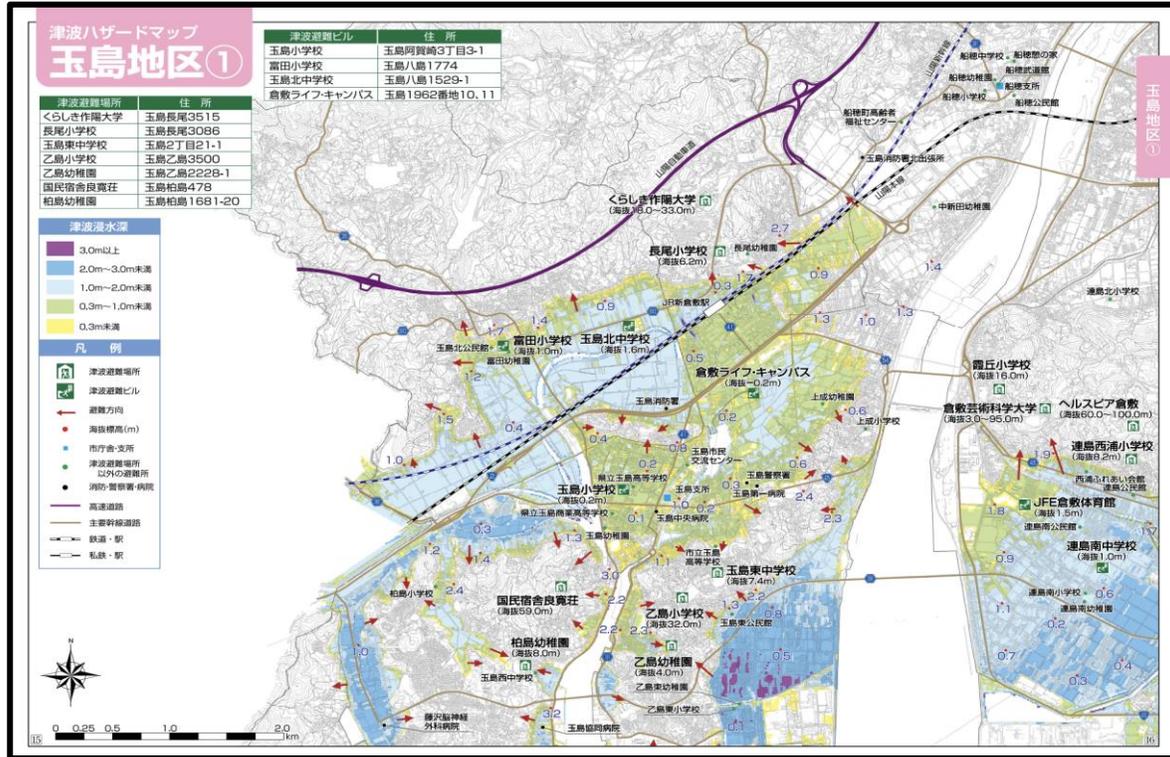
近隣や地域の人と協力し合いながら防災・減災に向けた行動をとること

→阪神淡路大震災・東日本大震災の事例から**地域で防災に取り組む重要性**を学びました



01 プロジェクトの概要

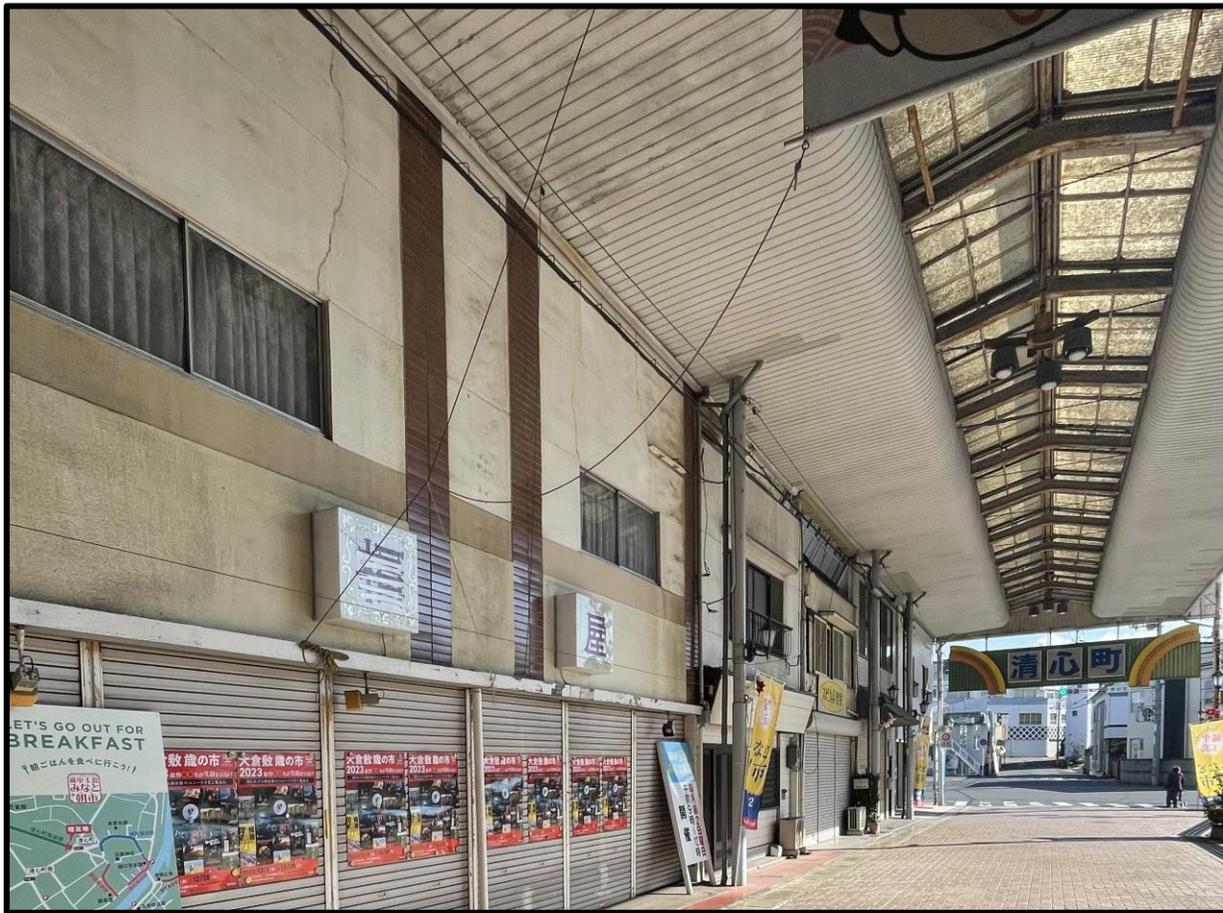
これから起こる南海トラフ地震への対応（津波の被害）



どのような取り組みが必要だろうか？

01 プロジェクトの概要

玉島地域の課題 「地域のつながり減少」



01 プロジェクトの概要

玉島地域の課題「地域のつながり減少」

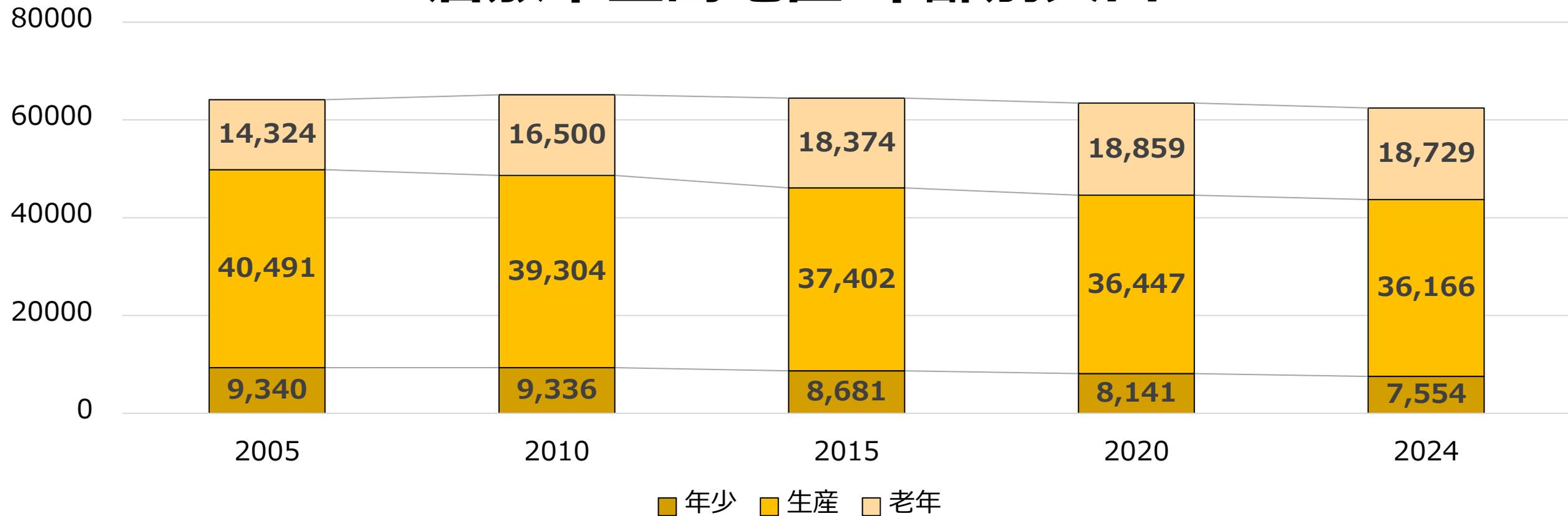
倉敷市の地区別人口

地区	平成26年	令和3年	比較
倉敷	1 9 4 , 5 0 6	2 0 0 , 7 0 9	6 , 2 0 3
児島	7 2 , 4 8 1	6 7 , 1 0 1	▲ 5 , 3 8 0
玉島	6 5 , 0 7 7	6 3 , 3 4 4	▲ 1 , 7 3 3
水島	8 9 , 3 5 2	8 9 , 1 7 0	1 8 2
船穂	7 , 4 7 0	7 , 9 2 0	4 5 0
真備	2 2 , 9 6 7	2 0 , 7 0 0	2 , 2 6 7

01 プロジェクトの概要

玉島地域の課題「地域のつながり減少」

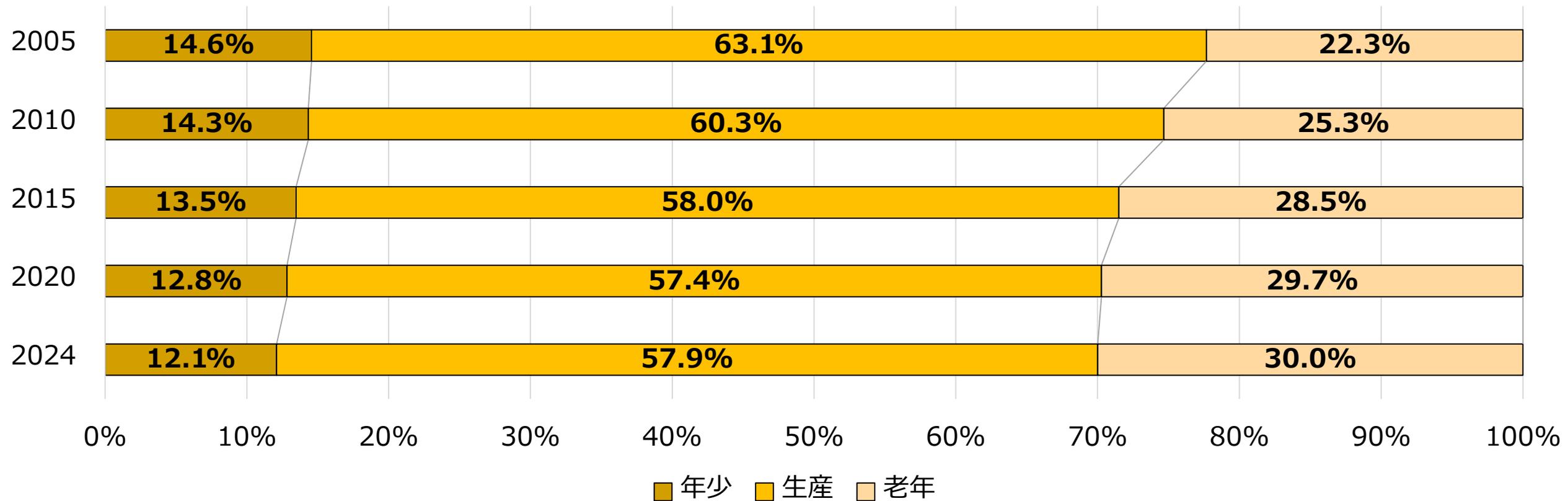
倉敷市玉島地区 年齢別人口



01 プロジェクトの概要

玉島地域の課題「地域のつながり減少」

倉敷市玉島地区 区分別構成割合



01 プロジェクトの概要

玉島地域の課題「地域のつながり減少」

倉敷市内の地区別空き家の数

地区	平成26年	令和3年	比較
倉敷	2,049	2,608	559
児島	2,049	2,352	303
玉島	1,425	2,352	927
水島	1,728	1,505	▲223
船穂	109	127	18
真備	260	244	▲16

01 プロジェクトの概要

私たちができること

玉島地域の課題である**地域のつながり**を作り直す場を私たちが設定することはできるのでは？

→地域の方々が「**対話**」をしながら**地域の防災について考える避難訓練**を企画してはどうだろうか？



目次

01 プロジェクトの概要

02 プロジェクトの流れ

03 プロジェクトを振り返って

04 まとめ



02 プロジェクトの流れ

5月下旬

- 「地理総合」で地域の防災についてハザードマップなどのGISから学ぶ
- 地域についてフィールドワークを実施して地域の実態を調査する



02 プロジェクトの流れ

6月上旬

- 地域の「防災力」が向上するためのコースの想定（後で説明します）
- 玉島西公民館と連携し地域の多様な人に参加を依頼（町内会長・民生委員・人権委員・小学校教員・高校教員などにお声かけした）



02 プロジェクトの流れ

7月4日（木）下見と 事前打ち合わせ

- ・ コースの下見
- ・ 玉島西公民館スタッフとの事前打ち合わせ
- ・ 全体リハーサル



02 プロジェクトの流れ

7月7日（日）避難訓練 （当日の内容）

①南海トラフ地震について講義

- 南海トラフ地震発生のメカニズムや可能性について説明
- 避難する際の防災知識についてクイズ形式で説明



02 プロジェクトの流れ

7月7日（日）避難訓練 （当日の内容）

② 2ルートに分かれた避難訓練

住宅街ルート （赤色の線）

海拔が低いが高海沿いからは遠い住宅地を通りながら避難所である玉島西公民館を目指す

海沿いルート （青色の線）

海拔が高いが移動する際に傾斜が厳しい神社を通りながら避難所である玉島西公民館を目指す



02 プロジェクトの流れ

7月7日（日）避難訓練 （当日の内容）

③ 「対話」をしながら避難訓練

- ・ 避難訓練アプリを使い津波の臨場感を演出する（時間とともに津波の表示が変化）
- ・ 地域の様子について気が付いたことを地図上にメモする

津波避難訓練アプリ



02 プロジェクトの流れ

7月7日（日）避難訓練 （当日の内容）

④避難経路について「対話」を 通した振り返り

- ・避難経路のメリット・デメリットについてまとめる
- ・まとめながら気が付いた地域の実態を発表する



02 プロジェクトの流れ

7月7日（日）避難訓練 （当日の内容）

⑤ これからの地域の防災について「対話」を通じた振り返り

- これからどのようなことに注意して避難行動をとるべきかまとめる
- 参加者同士のつながりを作る

どのようなことに注意して避難行動を取ればよいか



高校生と学ぶ防災アプリを
使った津波避難体験！
in玉島西公民館

岡山県立玉島西高等学校 防災チーム (GMAW)



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



02 プロジェクトの流れ

10月20日（日）倉敷市市民講座 避難訓練

- ・ 倉敷市市民講座として地域外の方からの参加で7月7日（日）と同様の内容で実施
- ・ 倉敷市防災危機管理室から指導講評をいただく



目次

01 プロジェクトの概要

02 プロジェクトの流れ

03 プロジェクトを振り返って

04 まとめ



03 プロジェクトを振り返って（成果）



海沿いの道は傾斜があり、足腰に自信がある住民には素早く高いところへ避難できるルートであるが、高齢者などが逃げ遅れ津波に巻き込まれる可能性がある。

地域の実態について 知ることができた

住宅街の道はブロック塀などがあり地震発生時は通行が困難になる可能性もあるが、住民への声掛けがしやすく「共助」という視点では必要なルートである。



03 プロジェクトを振り返って（成果）



事前に住民たちと声を掛け合い多様な人たちに配慮しながら、避難行動を撮ることができるようにするべき。

**地域のつながりを
深めることができた**

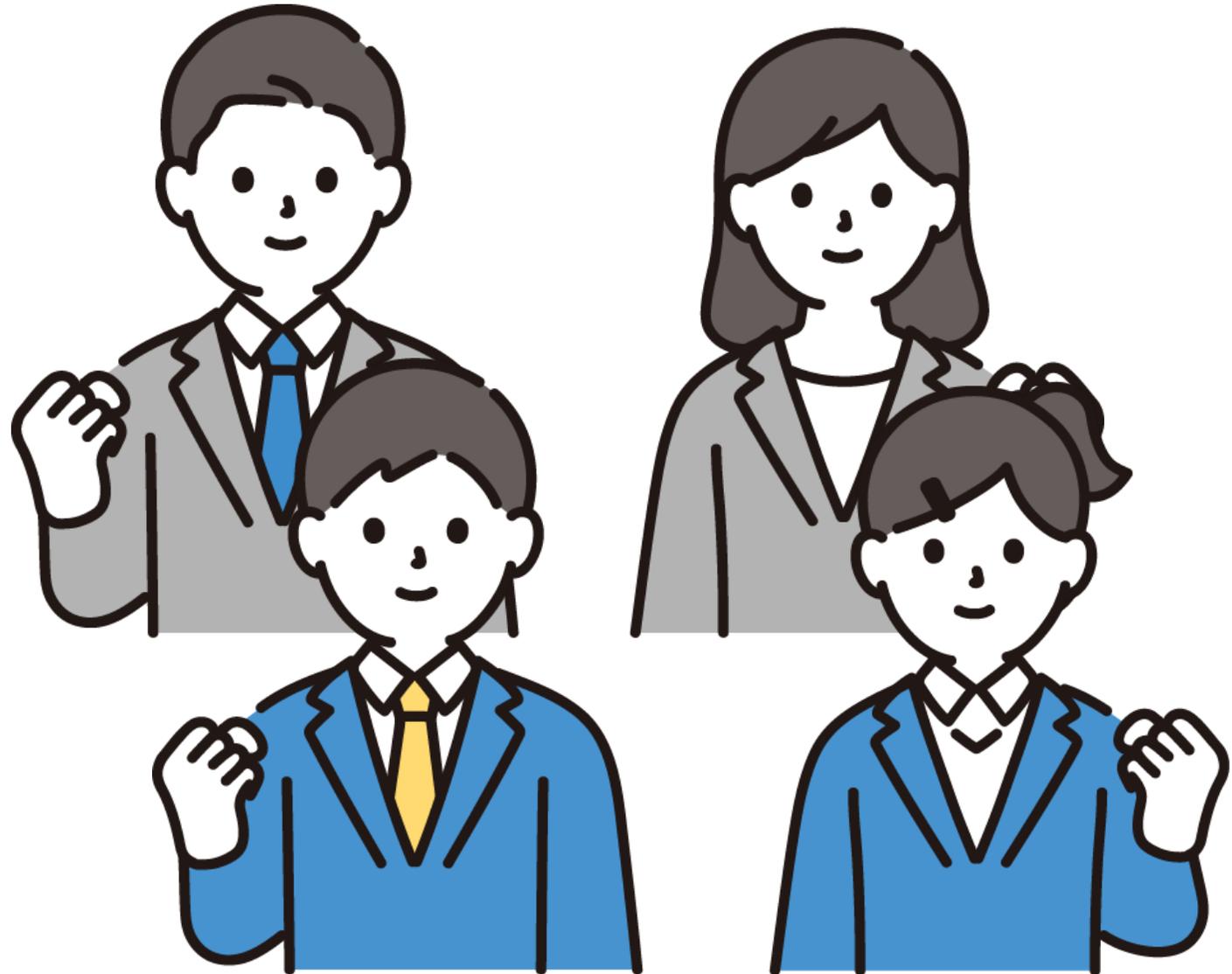
想定外のことが起こる可能性があるため、住民で複数の避難ルートを想定して準備しておくことが必要である。



03 プロジェクトを振り返って（課題）

「単発」でなく「継続」

- 1回限りの行事ではなく今後
もチームとして後輩に繋いで
いく
→学校が無くなる限り今
後も高校生は玉島地域で学
び続ける
⇒高校生がつなぐ意義
- 全国の高校生とつながっていく



03 プロジェクトを振り返って（課題の克服）

「単発」でなく「継続」への取り組み

- ・ 校長先生とともに北海道の校長会が主催している第2回「Do!防災アクション」に道外高校として参加
北海道：月形・札幌白陵・静内・函館
西・雄武・白糠・上磯
道外：東京調布南・石川輪島・本校
- ・ 有志で結成したチームであるため
1年生に募集をかけて希望者を募り継続した取り組みへ



目次

01 プロジェクトの概要

02 プロジェクトの流れ

03 プロジェクトを振り返って

04 まとめ



04 まとめ

玉島地域が抱える課題 = 日本が抱える課題を乗り越える

孤独・孤立の進行による「**地域のつながりの希薄化**」
を乗り越えて「**対話**」から「**共助**」をつくりだす
→ **高校生が中心となって活動していくことの重要性**



地域の「対話」を
高校生から巻き起こし
地域の「共助」を創り出します

ご清聴ありがとうございました!

